授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期
科目名	人体の構造と機能	授業形態	講義	単位数	2 単位
担当教員	小林　佳子	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	小学校,中学校,特別支援学校養護教諭としての実務経験を活かし、現場で求められる養護教諭の資質に基づいて実践的な指導を行う。				
授業のねらい （到達目標）	・養護教諭に必要とされる解剖生理学の知識を修得し、その概要を説明できる。 ・正常な人体の仕組み及び各組織と臓器の構造と機能について説明できる。 ・怪我や病気を理解する基礎となる解剖生理学の知識を修得し、身体の異常に対する適切な判断につなげることができる。				
授業概要	・怪我、病気を理解するための基礎となる人体の構造とその機能について学ぶ ・身体についての全体像を把握し、各組織・臓器の構造について学ぶことにより、生命は各組織や器官の調和的仕組みによって維持されていることを理解する				
テキスト	人体機能学・人体構造学				

授業計画		
	第1回	解剖学的用語、細胞と組織、人体の構造
	第2回	骨格系の構造と機能
	第3回	筋・関節系の構造と機能
	第4回	循環器系の構造と機能
	第5回	呼吸器系の構造と機能
	第6回	消化器系の構造と機能①
	第7回	消化器系の構造と機能②
	第8回	泌尿器系の構造と機能
	第9回	生殖器系の構造と機能
	第10回	内分泌系の構造と機能
	第11回	神経系の構造と機能①
	第12回	神経系の構造と機能②
	第13回	感覚器系の構造と機能
	第14回	血液の組成と機能
	第15回	体温とその調節、バイタルサイン

単位認定 ・ 評価方法					
中間レポート　期末試験の実施　授業時数の2/3 以上の出席　平常評価:授業態度、提出物等	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する					

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期
科目名	看護学Ⅰ	授業形態	演習	単位数	2 単位
担当教員	小林　佳子	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	小学校,中学校,特別支援学校養護教諭としての実務経験を活かし、現場で求められる養護教諭の資質に基づいて実践的な指導を行う。				
授業のねらい （到達目標）	看護の概念および養護教諭として必要な学校看護の基礎を学ぶことを目的とする。				
授業概要	講義を中心として、養護をつかさどる専門職種としての看護の観点、健康観、学校看護の対象理解、学校看護における連携、養護実践と倫理、法的側面、養護実践の概要などについて学習する。				
テキスト	改訂　養護教諭、看護師、保健師のための学校看護　学校環境と身体的支援を中心に				

授業計画		
	第1回	看護・養護の概念
	第2回	養護教諭の歴史（学校看護婦）
	第3回	養護教諭の歴史（養護訓導）
	第4回	養護教諭の歴史（養護教諭）
	第5回	看護師・保健師の歴史
	第6回	健康観の変遷
	第7回	学校看護における連携（学校医）
	第8回	学校看護における連携（学校薬剤師）
	第9回	学校看護における連携（医療機関）
	第10回	学校看護における連携（専門職）
	第11回	学校看護における連携（社会福祉）
	第12回	学校看護の対象理解
	第13回	学校看護における倫理・法的側面
	第14回	養護実践の概要
	第15回	授業総括

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期
科目名	教育実習事前・事後指導(幼稚園)	授業形態	演習	単位数	1 単位
担当教員	熊倉　美和	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	保育園・幼稚園・認定こども園での勤務経験を活かし、実践的な指導を行う。				
授業のねらい (到達目標)	1. 教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。 2. 幼児の発達特性や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法を習得し、目標とめあてをもって実習に臨む態度を育成する。 3. 実習後に総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。				
授業概要	教育実習は、習得した知識や理論を、実際に体験する場であることを理解し、目標とめあてを持って実習に臨み、教育の理解を深め、実践力と教師の使命感を身につけ、資質を向上させることを目的とする。 そのために、教育実習における日誌や個人記録の取り方の多様な視点を学び、幼児教育の実際や各自の教師としての能力・適性について認識を深める。				
テキスト	教育実習事前・事後指導(幼稚園)(姫路大学)				

授業計画		
	第1回	これまでの実習の振り返り
	第2回	実習意義・目的の理解、教育実習事前レポートの指導
	第3回	実習めあての作成、ファイル作成
	第4回	オリテ指導、ファイル作成
	第5回	研究課題の設定・準備
	第6回	ねらいの立て方の指導
	第7回	指導案、記入に必要な事項　様々な記録の取り方①
	第8回	指導案、記入に必要な事項　様々な記録の取り方②
	第9回	指導案、記入に必要な事項　様々な記録の取り方③
	第10回	指導案の作成① 題材、活動内容等の記入
	第11回	指導案の作成② 援助の工夫
	第12回	実習前最終確認・準備
	第13回	実習の振り返り、教育実習事後レポートの指導
	第14回	研究課題の提出・成果発表
	第15回	研究課題の提出・成果発表

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する					

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期
科目名	公衆衛生学Ⅰ	授業形態	講義	単位数	2 単位
担当教員	小林　佳子	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	小学校,中学校,特別支援学校養護教諭としての実務経験を活かし、現場で求められる養護教諭の資質に基づいて実践的な指導を行う。				
授業のねらい （到達目標）	人々の身体的・精神的・社会的な健康を保持・増進し疾病を予防することであることを理解し、公衆衛生活動に必要な基礎知識とその活用にあたっての考え方を学ぶ。				
授業概要	多要因からなる健康の成り立ちを理解し、健康的な生活の保持増進と疾病の予防のために、広い視野に 立って考えることができるよう関連する行政施策や法規、社会医学、医療倫理等を結びつけながら学習する。				
テキスト	公衆衛生学Ⅰ				

授業計画		
	第1回	公衆衛生学とは
	第2回	保健統計
	第3回	主な疾患の予防
	第4回	環境保健
	第5回	地域保健と保健行政
	第6回	国際保健医療
	第7回	疫学
	第8回	歯科保健と障害児・者保健福祉
	第9回	学校保健
	第10回	産業保健
	第11回	高齢者の保健・医療・介護
	第12回	食品衛生ならびに感染性疾患への対策
	第13回	精神保健
	第14回	健康危機管理・災害保健
	第15回	母子保健

単位認定 ・ 評価方法					
中間レポート　期末試験の実施　　授業時数の2/3 以上の出席　　平常評価：授業態度、提出物等	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する					

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期
科目名	看護学Ⅱ	授業形態	演習	単位数	2 単位
担当教員	小林　佳子	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	小学校,中学校,特別支援学校養護教諭としての実務経験を活かし、現場で求められる養護教諭の資質に基づいて実践的な指導を行う。				
授業のねらい （到達目標）	学校看護の場において科学的根拠をふまえた養護実践活動を展開するための知識・技術について学ぶことを目的とする。				
授業概要	講義・演習を中心に、養護教諭の行う養護実践のプロセス、学校における看護技術、健康な生活習慣形成への支援・援助、急性期症状の理解と支援・援助、万世紀の疾患と共に生きる子どもと家族の理解と支援など、範囲を広げて学習する。				
テキスト	改訂　養護教諭、看護師、保健師のための学校看護　学校環境と身体的支援を中心に				

授業計画	
第1回	養護実践のプロセス
第2回	スクリーニングとアセスメント
第3回	ヘルスアセスメント
第4回	フィジカルアセスメント
第5回	共通する基礎技術（コミュニケーション）
第6回	共通する基礎技術（安全・安楽）
第7回	セルフケアと支援技術
第8回	健康な生活習慣と支援技術
第9回	多様な急性期症状と支援①
第10回	多様な急性期症状と支援②
第11回	慢性疾患とともに生きる子どもと家族の理解と支援①
第12回	慢性疾患とともに生きる子どもと家族の理解と支援②
第13回	養護診断　ロールプレイ①
第14回	養護診断　ロールプレイ②
第15回	まとめ

単位認定
・
評価方法

期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席

平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度

上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する

総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期
科目名	臨床医科学Ⅱ	授業形態	講義	単位数	2 単位
担当教員	中川沙織	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	薬剤師免許所持　　認定臨床化学者証所持				
授業のねらい （到達目標）	各器官系に生じる代表的な疾患とその病態生理について説明できる				
授業概要	臨床医科学Ⅰで得た知識をもとにして、各器官系に生じる病気ごとに原因、病気の成り立ちや回復過程について学習する。				
テキスト	系統看護学講座　病理学　疾病のなりたちと回復の促進①				

授業計画		
	第1回	循環器系の疾患
	第2回	血液・造血器の疾患
	第3回	呼吸器系の疾患①
	第4回	呼吸器系の疾患②
	第5回	消化器系の疾患①
	第6回	消化器系の疾患②
	第7回	腎・泌尿器系の疾患
	第8回	生殖器系の疾患
	第9回	内分泌系の疾患
	第10回	脳・神経系の疾患
	第11回	筋肉系の疾患
	第12回	骨折および骨疾患
	第13回	感覚器系
	第14回	総括①
	第15回	総括②

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期
科目名	臨床医科学Ⅰ	授業形態	講義	単位数	2 単位
担当教員	中川沙織	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	薬剤師免許所持　　認定臨床化学者証所持				
授業のねらい （到達目標）	病気の発生に関する基本概念について説明できる				
授業概要	看護と病理学との関係性を知り，病気の原因や組織障害の修復，感染症や病理診断との関係性を学ぶ				
テキスト	系統看護学講座　病理学　疾病のなりたちと回復の促進①				

授業計画		
	第1回	看護と病理学
	第2回	疾病の原因
	第3回	細胞の損傷とその原因
	第4回	細胞の修復と創傷治癒
	第5回	循環障害
	第6回	炎症と免疫
	第7回	アレルギーと自己免疫疾患
	第8回	感染症①
	第9回	感染症②
	第10回	代謝障害
	第11回	老化と死
	第12回	先天異常と遺伝子異常
	第13回	腫瘍
	第14回	病理診断
	第15回	総括

単位認定・評価方法

期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席

平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度

上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する

総合評価算出基準	期末	中間	平常	出欠
	50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期
科目名	道徳教育論	授業形態	講義	単位数	2単位
担当教員	吉原　修英	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	公立小学校での勤務経験を生かし，現場で求められる教員の資質に基づいて実践的な指導を行う。				
授業のねらい （到達目標）	道徳教育の授業理論や発達段階に応じた授業実践について学修し、道徳の学習指導案を作成できる能力を養う。				
授業概要	道徳教育の改訂の経緯、道徳教育の基本的なあり方、目標と内容、指導計画、道徳の時間の指導、全教育活動における指導、家庭・地域社会との連携、道徳教育における児童理解と評価の意義、道徳的、倫理的課題について学修する。				
テキスト	自ら学ぶ道徳教育				

授業計画		
	第1回	道徳教育は必要か（1）（教科書：第1章） 道徳とは何かを確認したうえで、学校教育における道徳と他の授業科目（国語・算数など）との違いをおさえる。
	第2回	道徳教育は必要か（2）（教科書：第1章） 「手品師」という人気道徳教材をもとに、道徳授業のあり方を考える。
	第3回	道徳と倫理（教科書：第2章） 道徳と倫理をめぐる人類の叡智と学問的な蓄積を、歴史にさかのぼって通観する。
	第4回	道徳教育の歴史（教科書:第3章） 日本の道徳教育の歴史を、その時々の社会・政治体制との影響関係を通じて理解する。
	第5回	道徳教育における発達と生成（教科書：第4章） 心理学者コールバーグの理論を踏まえながら、日本映画『アカルイミライ』を題材にして現代社会における道徳形成のあり方を考える。
	第6回	道徳規範の諸側面（1）（教科書：第5章） 普遍的な道徳的価値があるとする道徳的絶対主義と、道徳的価値は個人や社会や文化圏によって異なるとする道徳的相対主義の違いを理解する。
	第7回	道徳教育の諸側面（2）（教科書:第5章） 道徳的絶対主義と道徳的相対主義の違いを踏まえながら、個人と他者との関係を考察する。
	第8回	悪について（教科書：第7章） 道徳を、「よさ」からではなく、「悪」から検討することで、道徳認識の射程を広げる。
	第9回	情報社会の倫理（教科書：第8章） 社会の変化に伴って生じている新たな道徳・倫理的課題（ここでは「情報倫理」）とその教育を検討する。
	第10回	応用倫理（1）（教科書：第9章） 社会の変化に伴って生じている新たな道徳・倫理的課題（ここでは「生命倫理」）とその教育を検討する。
	第11回	応用倫理（2）（教科書:第9章） 社会の変化に伴って生じている新たな道徳・倫理的課題（ここでは「動物倫理」）とその教育を検討する。
	第12回	応用倫理（3）（教科書：第9章） 社会の変化に伴って生じている新たな道徳・倫理的課題（ここでは「環境倫理」）とその教育を検討する。
	第13回	道徳教育の現代的傾向と新米教師の苦悩（教科書：第10・11章） 道徳教育の変遷を確認しながら、新米教師の奮闘記を手掛かりとして、道徳教育を実践的に考える。
	第14回	道徳の授業（教科書：第15・16章） 障がいのある子どもとの交流や養護学校との交流活動の実践を検討する。
	第15回	道徳をめぐる個人的視点を社会的視点　これまでの授業を振り返りながら、道徳をめぐる個人と社会の関係を捉えなおす。

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期
科目名	特別活動指導法	授業形態	講義	単位数	2単位
担当教員	曽根原　和明	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	小学校教員として12年間勤務し、学級担任として学級活動、児童会活動、学校行事などの特別活動を指導してきた。特に、話合い活動や集団づくりを通して、児童の主体性や協働性を育むことを重視した実践に取り組んできた。こうした経験を基に、本授業では、特別活動の理念・原理をふまえた実践的な指導方法や授業構成、場面に応じた教師のかかわりについて具体的に伝える。				
授業のねらい （到達目標）	特別活動の理念と構成を理解し、学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事といった各領域における具体的な指導方法を身につける。さらに、特別活動が児童の人間形成に果たす役割や教育課程における意義を体系的に捉え、実践的な指導計画の立案と評価に活用できる力を養う。				
授業概要	本授業では、特別活動の教育的意義を理論と実践の両面から学び、体験活動の価値や歴史的背景、学習指導要領の変遷などを通してその全体像を把握する。各活動領域の指導方法に加え、年間指導計画の作成や評価の考え方についても扱い、教育現場で実践的に生かせる特別活動の指導力を育成する。				
テキスト	姫路大学テキスト『特別活動指導法』				

授業計画		
	第1回	体験活動の意義
	第2回	教育の歴史に見る特別活動
	第3回	特別活動の目標
	第4回	人間形成と特別活動
	第5回	特別活動の教育課程における意義
	第6回	学級活動①
	第7回	学級活動②
	第8回	児童会活動
	第9回	クラブ活動
	第10回	学校行事①
	第11回	学校行事②
	第12回	特別活動の指導計画の作成に当たっての配慮事項①
	第13回	特別活動の指導計画の作成に当たっての配慮事項②
	第14回	特別活動における評価の考え方について
	第15回	学習指導要領（小学校）から見た特別活動の変遷

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期
科目名	特別活動論	授業形態	講義	単位数	2単位
担当教員	曽根原　和明	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	小学校教員として12年間勤務し、学級担任として児童の自治的活動や話合い活動、学校行事の企画運営、学級活動など、特別活動全般に日常的に取り組んできた。児童の発達段階に応じた集団づくりや個別支援を通して、協働性や自己有用感の育成を図る実践を行ってきた経験を有する。それらの経験を基に、本授業では特別活動の理念や原理をふまえた指導の在り方について具体的に伝える。				
授業のねらい （到達目標）	特別活動の理念と原理を理解し、これからの特別活動に求められる視点について理解を深めることができる。 (1)特別活動の意義、基本的性格を理解し、説明できる。【知識・理解】 (2)特別活動を通して育まれる資質・能力について集団活動と関連付けて論じることができる。【汎用的技能】 (3)児童生徒の発達段階に留意しながら、どのような資質・能力が獲得できるのか考察することができる。【態度・志向性】				
授業概要	特別活動において、児童生徒にどのような資質・能力育むのか、特別活動の理念、基本的性格、指導原理について理解を深める。その上で、教師と児童生徒の信頼関係の基で、児童生徒相互の人間的な関係を醸成する集団活動を通してどのように資質能力を育んでいくのかについて、具体的事例を基に検討する。				
テキスト	中村豊、原清治編著「新しい教職教育講座教職教育編9　特別活動」ミネルヴァ書房				

授業計画		
	第1回	特別活動の目標と教育的意義①
	第2回	特別活動の目標と教育的意義②
	第3回	特別活動が育む資質・能力
	第4回	特別活動の評価と方法
	第5回	児童生徒による自主的、実践的な活動
	第6回	特色ある学校行事の実践
	第7回	特別活動と道徳教育ならびに総合的な学習の時間
	第8回	生徒指導のガイダンス機能を生かした学級活動
	第9回	小学校における指導の実際
	第10回	中学校における指導の実際
	第11回	高等学校における指導の実際
	第12回	学級経営・ホームルーム経営
	第13回	キャリア教育と進路指導
	第14回	特別な支援や配慮を要する児童生徒
	第15回	特別活動と地域社会との連携

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する					

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期
科目名	国語科指導法	授業形態	演習	単位数	2単位
担当教員	仲川容子	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	指導主事，小学校校長等の経歴あり				
授業のねらい （到達目標）	確かな国語の力が付く授業づくりの基本を，体験を通して理解することを目的とする。				
授業概要	１　小学校学習指導要領（国語）の目標及び内容を踏まえ，授業づくりの基本的枠組みを説明することができる。 ２　国語科学習指導案及び「板書・発問計画」を作成し，模擬授業に向けた練習を行うことができる。				
テキスト	国語科指導法Ⅰ（姫路大学），国語　五　銀河　，わたしが素直になれるとき， 小学校学習指導要領解説　国語編				

授業計画		
	第1回	学習指導要領　国語編の変遷概要
	第2回	新学習指導要領国語編 ・改訂のポイント
	第3回	・領域と指導事項
	第4回	言語活動の充実を図った学習指導
	第5回	言語活動の充実を図った学習指導
	第6回	言語活動の充実を図った学習指導
	第7回	学習指導案の作成
	第8回	学習指導案の作成
	第9回	学習指導案の作成
	第10回	学習指導案の作成
	第11回	学習指導案の作成
	第12回	学習指導案の作成
	第13回	学習指導案の作成
	第14回	言語事項の指導
	第15回	言語事項の指導

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する					

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期
科目名	社会科指導法	授業形態	演習	単位数	2単位
担当教員	有田　一正	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	公立小学校での勤務経験を生かし、現場で求められる教員の資質に基づいて実践的な指導を行う。				
授業のねらい （到達目標）	「社会事象に興味・関心を持って取り組む」について、「学習指導要領解説　社会編」、教科書等から確認し理解する。 小学校社会科の指導方法について具体的な資料等を通して学び、実践的な指導力を身につける。				
授業概要	・小学校社会科及び学年の目標と内容について再確認する。 ・各学年の年間計画と各単元の指導計画の作成について具体的に学習する。 ・これらの学習を踏まえ、児童が社会的事象に興味・関心をもって主体的に社会科の授業に取り組み、確かな学力を身につける問題（課題）解決学習などの指導法に重点を置いて学習する。 ・総合的な学習の時間との関連についても学ぶ。				
テキスト	社会科教育のルネサンス―実践知を求めて―				

授業計画	
第1回	「小学校でねらう公民的資質の基礎」について、「小学校学習指導要領解説　社会編」及び教科書等で確認し理解する。
第2回	小学校社会科第3・4学年の目標について、「小学校学習指導要領解説　社会編」及び教科書で理解する。
第3回	小学校社会科第5・6学年の目標について、「小学校学習指導要領解説　社会編」及び教科書で理解する。
第4回	小学校社会科第3・4学年の内容について、「小学校学習指導要領解説　社会編」及び教科書から確認し理解する。
第5回	小学校社会科第5学年の内容について、「小学校学習指導要領解説　社会編」及び教科書から確認し理解する。
第6回	小学校社会科第6学年の内容について、「小学校学習指導要領解説　社会編」及び教科書から確認し理解する。
第7回	「確かな学力を身につける社会科の授業」について、「学習指導要領解説　社会編」の改訂の趣旨や教科書を確認し、観点別学習票の趣旨等を理解し、学習指導案を作成する。
第8回	模擬授業を振り返り、授業改善を図る手立てを具体的に考えまとめる。「社会的な見方や考え方」について、「学習指導要領解説　社会編」、教科書等から確認し理解する。
第9回	「社会科における言語活動の充実」について、「学習指導要領解説　社会編」、教科書等から確認し理解する。
第10回	「社会科における問題解決学習」について、これまでの授業実践や研究成果を踏まえ、教科書等から理解する。
第11回	「社会科における体験的学習」について、「学習指導要領解説　社会編」、教科書等から理解する。
第12回	「小学校社会科と総合的な学習の時間の関連」について、総合的な学習が誕生した背景を理解し、社会科と総合的な学習の時間の共通点と相違点を確認しながら理解する。
第13回	「小学校社会科の年間指導計画作成のポイント」について、「学習指導要領解説　社会編」、教科書から理解する。
第14回	「小学校社会科の単元の指導計画作成のポイント」について、単元の目標や指導計画、単元の展開のポイント、評価の手立て等について教書を整理し確認する。
第15回	「社会事象に興味・関心を持って取り組む」について，「学習指導要領解説　社会編」，教科書等から確認し理解する。

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期
科目名	算数科指導法	授業形態	講義	単位数	2 単位
担当教員	池野　正晴	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	国公立小学校の教員及び公立高等学校の校長の経験を生かす				
授業のねらい （到達目標）	○問題解決的な学習過程を理解し，具体的な単元の学習指導案を作成することができる。 ○自らの模擬授業を通して，模擬授業の反省点や改善点・対策について考えたり，他の模擬授業を児童として体験し，教師目線で検討したりすることができる。				
授業概要	○小学校算数科の目標及び内容を踏まえて，算数科の授業づくりのための具体的な方法を学び，学習指導案を作成する。 ○作成した学習指導案を活用し，模擬授業を行い，授業の実際を体験することにより，さらによりよい授業づくりのための方法を学ぶ。				
テキスト	『自ら考えみんなで創り上げる算数学習』(増補第3版)，東洋館出版社，2023年 『小学校学習指導要領解説　算数編』，日本文教出版社，2018年				

授業計画		
	第1回	プロローグ，模擬授業の計画，算数科の授業づくり
	第2回	学習指導案作成の意味とその作成の仕方，実施単元の検討／決定
	第3回	問題解決的学習と数学的活動のつくり方
	第4回	学習指導案における本時の指導／展開案の書き方
	第5回	実施単元の構想と検討
	第6回	「整数の概念・性質」指導のポイントー模擬授業とそのふり返り
	第7回	「整数の加法・減法」指導のポイントー模擬授業とそのふり返りー
	第8回	「整数の乗法・除法」指導のポイントー模擬授業とそのふり返りー
	第9回	「小数の意味と四則演算」指導のポイントー模擬授業とそのふり返りー
	第10回	「分数の意味と四則演算」指導のポイントー模擬授業とそのふり返りー
	第11回	「図形の概念・性質と求積」指導のポイントー模擬授業とそのふり返りー
	第12回	「量の概念と測定の意味」指導のポイントー模擬授業とそのふり返りー
	第13回	「伴って変わる数量の関係と割合」指導のポイントー模擬授業とそのふり返りー
	第14回	「統計的探究プロセスと統計データ」指導のポイントー模擬授業とそのふり返りー
	第15回	授業づくりで大切なことについてのグループ討論／発表，エピローグ

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期
科目名	理科指導法	授業形態	講義	単位数	2 単位
担当教員	齋木　健二	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	公立小学校での長期にわたる勤務経験から，小学校で求められる教師の資質に基づいて実践的な指導を行う。				
授業のねらい（到達目標）	・学習指導要領やテキスト，教科書の実践例から学習指導について学び、理科指導法を実践的に習得することを目指す。				
授業概要	・学習指導要領やテキストから，学習指導要領の改訂の意図，小学校理科の目標をより具体的に学ぶ。 ・各分野の学習材、指導事例から学習指導の方法、指導案、留意事項等を実践的に学ぶ。				
テキスト	理科指導法（姫路大学）				

授業計画		
	第1回	学習指導案の書き方～価値ある内容をどんな育ちの子どもたちにどう教えるか～
	第2回	問題解決学習と科学的な見方・考え方
	第3回	理科の内容、目標、方法
	第4回	ICTの活用（パワーポイント、動画、写真等の活用）
	第5回	理科における協同学習の方法（話し合いのルールと発表の仕方）
	第6回	理科における指導と評価の一体化
	第7回	意外性のある実験が入った授業～深い学びに導くには～
	第8回	発問と予想の提示の仕方～問題解決学習から見通しを持った実験・観察の方法を学ぶ
	第9回	板書の計画の立て方～情報活用・表現スキル育成と板書の構成の仕方を学ぶ。
	第10回	模擬授業の実践①「比較実験」～物質領域：小学校3年～電気を通すもの、光の性質
	第11回	模擬授業の実践②「関係付け実験」～エネルギー領域：小学校4年～　水の三つの姿、ものあたたまり方
	第12回	模擬授業の実践③「条件制御実験」～エネルギー領域：小学校5年～ふりこのきまり、電磁石のはたらき
	第13回	模擬授業の実践④「多面的判断、推論実験」～物質領域：小学校6年～水溶液の性質、金属と酸・アルカリ
	第14回	模擬授業の実践⑤「多面的判断、推論実験」～地球領域：小学校6年～月と太陽、大地のつくりとはたらき
	第15回	模擬授業を振り返って　～論作文「模擬授業体験から主体的で対話的な深い学びに導く授業とは」～

単位認定・評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期
科目名	生活	授業形態	講義	単位数	2 単位
担当教員	斎藤　真	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	宮城県小中学校1.5年，山形県小学校9年，国立大教育学部及び大学院におけるティーチングアシストおよびティーチングサポート（授業支援，学生支援）2年，私大教員学部の教育研究職助手5年，教育実習センター5年				
授業のねらい （到達目標）	・学習指導要領とテキストのほか，児童用教科書のほか教師用指導書の検討も通して 生活科の理論と実際を学び，後期「生活科指導法」の実践につなげる。				
授業概要	・学習指導要領やテキストから，生活科誕生の経緯をおさえる ・直接体験を通じた生活科学習への教師の支援を検討する ・生活科発祥の地の一つでもある，信州や上越地域における生活科実践例から学ぶ ・幼児期におけるスタートカリキュラムの観点から生活科学習を理解する				
テキスト	生活科・総合的な学習事典				

授業計画		
	第1回	生活科ってどのような科目？公園探索を通じた理解
	第2回	生活科を児童用教科書から分析しよう
	第3回	伊那小学校の実践
	第4回	生活科の特徴をおさえよう　ー児童用の立ち場でー
	第5回	生活科の特徴をおさえよう　ー児童用の立ち場でー
	第6回	生活科の特徴をおさえよう　ー教師の立ち位置から考えようー
	第7回	生活科の特徴をおさえよう　ー教師の立ち位置から考えようー
	第8回	①わたしと　あさがおの単元をもとに考えよう。①生活科とICT。
	第9回	①わたしと　あさがおの単元をもとに考えよう。②生活科とICT。
	第１０回	生活科と総合的な学習の時間との関係をおさえよう
	第１１回	生活科と総合的な学習の時間との関係をおさえよう
	第１２回	生活科と総合的な学習の時間との関係をおさえよう

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する					

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期
科目名	家庭科指導法	授業形態	演習	単位数	2単位
担当教員	松井　裕美	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	公立小学校での勤務経験を生かし、現場で求められる教員の資質に基づいて実践的な指導を行う。				
授業のねらい （到達目標）	・衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、家庭生活に焦点をあて、日常生活に必要な基礎的 ・基本的な知識と技能を身につけ、家族の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育てる。				
授業概要	教科としての「家庭科」の意義と、小学校における「家庭科」の目標、内容、指導方法について、平成29年告示をもとに習得する。また「家庭科」から総合的な学習の時間などへの提案についても学ぶ。				
テキスト	小学校学習指導要領解説　家庭編，私たちの家庭科5・6年				

授業計画		
	第1回	小学校家庭科の変遷、改訂の流れ及び育成すべき学習内容の理解
	第2回	平成29年改訂の小学校学習指導要領の基になっている平成28年中央教育審議会答申を読み、これからの家庭科教育における課題を掴む。
	第3回	平成29年改訂小学校学習指導要領家庭科において改訂された部分を把握し、これからの家庭科教育の在り方を理解する。
	第4回	小学校家庭科の学習の基礎・基本について衣食住を中心に理解する。
	第5回	家庭科指導の学習指導のあり方の特質について、児童や地域の実態などの日常生活に合う題材の実践的活動の工夫を学ぶ。
	第6回	家庭科の学習内容の全体構造について学ぶ。
	第7回	家庭科における「基礎・基本」について体験的・実践的活動を通した授業について学ぶ。
	第8回	家庭科における実践的な態度の育成について学ぶ。
	第9回	家庭科における学習評価　観点別による評価や評価方法を理解する。
	第10回	家庭科と総合的な学習の時間や道徳などとの関連を学ぶ。
	第11回	小学校の家庭科と他教科との関連、中学校家庭科との関連について学ぶ。
	第12回	題材構成をした授業計画の構想1　参考文献などの実践例から授業指導計画を学び、学習展開や題材構成についてポイントを理解する。
	第13回	題材構成をした授業計画の構想2　参考文献などの実践例から題材構成をし、授業指導計画の構想、学習指導案の作成をする。
	第14回	題材構成をした授業計画の構想3　授業指導計画の中から本時の学習展開を構想し、作成する。
	第15回	1～3回の内容を中心に設題1について文章化する。

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期
科目名	体育科指導法	授業形態	講義	単位数	2 単位
担当教員	宮﨑　孝一郎	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	他大学での勤務				
授業のねらい （到達目標）	小学校学習指導要領体育科の目標・内容が理解できる。 「教材づくり」が授業構想の中で重要な柱になることを理解し、 指導案作成および模擬授業の運営ができる。				
授業概要	前半は、講義を通して理解を深め、授業計画を立てる 後半は、模擬授業と振り返りを通して実践的な力をつける				
テキスト	テキスト「体育科指導法」 小学校学習指導要領概説　体育編				

授業計画		
	第1回	体育のカリキュラム論
	第2回	体育の目標と内容
	第3回	指導計画の作成
	第4回	よい授業の条件
	第5回	体育の教材・教具
	第6回	単元計画の作成
	第7回	授業計画の作成
	第8回	模擬授業
	第9回	模擬授業
	第10回	模擬授業
	第11回	模擬授業
	第12回	模擬授業
	第13回	模擬授業
	第14回	模擬授業
	第15回	総まとめ

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	通年
科目名	教育実習	授業形態	実習	単位数	4 単位
担当教員	実習専任教員	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	保育園・幼稚園・認定こども園等の該当実習施設での勤務経験				
授業のねらい （到達目標）	1．実習生の姿勢・態度 ・マナーを守り、意欲的に取り組む ・礼儀正しく、謙虚な姿勢で学ぶ ・自分から進んで質問をし、、実践的な学びを深める ・実習園の特色や保育方針を理解し、課題を明確にして実習に臨む ・「今日の課題」を考察し、「明日の課題」を明確にしながら学びを積み上げようとする ・「個」と「集団」に積極的に関わり、観察し学びを深める 2．知識及び技能 ・幼児の「前に立つ」ための準備をして実習に臨む ・3歳児から5歳児の発達を理解し実習に臨む ・保育におけるPDCAサイクルを理解する ・ピアノや絵本の読み聞かせなど、保育技術を磨いて実習に臨み、実践の場においてさらなる向上を目指す ・幼児の言動から心情を感じとりながら、関わることができる 3．実習日誌 ・各年齢の発達の特徴や保育の流れやつながりを理解して時系列に記録ができる ・幼児に対する保育者の働きかけを具体的に記録できる ・幼児の姿を観察し、場面の記録を書くことができる ・「気づき」を書く事ができる ・保育者の意図を感じ取り「学び」や「気づき」を書くことができる ・「個」と「集団」の姿を記録できる ・幼児との関わりを詳細に記録し、省察することができる 4．指導案 ・子どもの姿を予測し、配慮事項や留意点を挙げることができる ・導入、展開、まとめを一連の流れとして立案できる 5．手続きと提出物 ・期日を守り、自主的に進められる ・期日を確認し、計画的に進められる				
授業概要	実際に幼稚園の生活を体験する中で、園生活の流れと幼児の生活、発達の姿、幼稚園教諭の職務を理解できるように指導する。 教育実習Ⅰでの経験を基礎として、観察や指導案に基づいた実践を行う。幼稚園の教育理念や教育課程を把握し、「個」と「集団」の理解、幼稚園教諭の職務に対する理解等がさらに深まるよう指導する。また、指導案を作成し実践的な体験を通して学べるよう指導する。				
単位認定 ・ 評価方法	実習園による評価（出勤状況・実習態度・職務理解・施設理解・幼児理解当の等の基準に基づく） 及び実習日誌を総合して評価をする。 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する				

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期
科目名	国語	授業形態	講義	単位数	2単位
担当教員	仲川容子	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	指導主事，小学校校長等の経歴あり				
授業のねらい （到達目標）	小学校国語科の構造や目標，内容，指導の在り方など，小学校における国語科教育の基礎的・基本的な事柄について習得することを目的とする。				
授業概要	① 小学校国語科の目標及び内容構成について説明することができる。 ② 国語科教育の重要性や必要性について，自分の考えを述べることができる。 ③ 国語科教育の実践につながる課題や手掛かりをつかむことができる。				
テキスト	国語（姫路大学）				

授業計画		
	第1回	国語とはなにか　　世界の言葉と国語の特徴
	第2回	音韻と音声
	第3回	語彙と外来語
	第4回	社会の中の敬語
	第5回	漢字の組織と役割
	第6回	かなの成り立ちと使い方　国語の歴史
	第7回	こどもの言語の習得
	第8回	国語の文法
	第9回	国語の品詞
	第10回	方言と共通語
	第11回	国語の政策史
	第12回	国語の政策史
	第13回	子どもの言語習得について
	第14回	母語と母国語
	第15回	総括

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する					

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期
科目名	社会	授業形態	講義	単位数	2単位
担当教員	有田　一正	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	公立小学校での勤務経験を生かし、現場で求められる教員の資質に基づいて実践的な指導を行う。				
授業のねらい （到達目標）	小学校社会科の目標と内容について、小学校学習指導要領解説・社会編を基にして学修し、理解を深める。				
授業概要	・今回の学習指導要領の改訂における小学校社会科の改訂のねらいと社会科の目標及び各学年の目標と指導内容の特色等について具体的に学修する。 ・学び方や調べ方を身につける学習や体験的な学習、問題解決的な学習を一層重視する社会科学習のあり方についても学修する。				
テキスト	社会科教育のルネサンス―実践知を求めて―				

授業計画		
	第1回	課題：「社会科」に期待されていることは何だろう。 テキストpp.1-9を読み、改訂された学習指導要領の性格をまとめよう。
	第2回	課題①：教育基本法より、社会科に関係する箇所・条文を見つけようる。 課題②：戦後に登場した社会科はどのような内容であったのか。
	第3回	課題：各学年の目標のうち、「理解に関する目標」「態度に関する目標」について注目し、学年を追ってどのような発達を子どもに期待しているのか説明してみよう。
	第4回	課題①：指導計画を作成する上での配慮事項をまとめよう。 課題②：各学年にわたる内容の取り扱いと指導上の配慮事項をまとめよう。
	第5回	課題：学習指導作成にあたってのポイントを整理しよう。
	第6回	設題：社会科における「言語活動」はどうあるべきか。具体的な指導方法を取り上げ、どう評価するのか説明しよう。
	第7回	第3・4学年の地域学習① 課題：「地域における社会的事象を観察や調査する」にあたり具体的に取り組ませる時のポイントを指摘しよう。
	第8回	第3・4学年の地域学習② 課題：地域図から「地形」「土地の利用の様子」を読み取ろう。
	第9回	第3・4学年の地域学習③ 課題：地域巡検を実践しよう。
	第10回	第5学年の国土学習 課題：我が国の位置と領土について調べる際の留意点について説明しよう。
	第11回	第5学年の産業学習 課題：統計資料にはどのような種類があるのか。又それぞれの特性について考えよう。
	第12回	第6学年の国際社会と日本の学習 課題：「グローバル化する世界と日本の役割」をどう学ばせるのか、具体的に学ばせる時のポイントを指摘しよう。
	第13回	課題：指導計画の作成にあたっての配慮事項にはどのようなものがあるのか、要点をまとめよう。
	第14回	課題：内容の取り扱いについての配慮事項にはどのようなものがあるのか、要点をまとめよう。
	第15回	課題：学習指導案作成にあたってのポイントを整理しよう。授業の時に大切にすることは何か。その根拠も含めて各々リストアップしてみよう。

単位認定 ・ 評価方法	
	期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席
	平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する

総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期
科目名	算数	授業形態	講義	単位数	2 単位
担当教員	池野　正晴	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	国公立小学校の教員及び公立高等学校の校長の経験を生かす				
授業のねらい （到達目標）	○小学校算数科における目標と内容及び全体構造を理解し，説明することができる。 ○数学的に考える資質・能力や数学的な見方・考え方，数学的活動を説明することができる。 ○算数科における問題解決的な学習展開のあり方について説明することができる。				
授業概要	○小学校算数科における目標と内容及び全体構造を説明することができる。 ○1学年から6学年の内容について，領域ごとに系統的に理解する。 ○問題解決的な学習展開のあり方について理解する。（特に，問いへの気づかせ方と多様な考えの生かし方・まとめ方について理解する。）				
テキスト	『自ら考えみんなで創り上げる算数学習』（増補第3版），東洋館出版社，2023年 『小学校学習指導要領解説　算数編』，日本文教出版社，2018年				

授業計画		
	第1回	プロローグ，算数しましょⅠ（正三角形づくり），算数クイズ（宿題）
	第2回	算数クイズ，算数しましょⅡ（№15の数），グループ研究・プレゼンのチーム編成
	第3回	算数クイズ（継続），算数しましょⅡ（№15の数）
	第4回	算数しましょⅢ（円の内接正方形と外接正方形，円の面積）
	第5回	算数しましょⅣ（九九表の秘密・不思議）
	第6回	問題解決的な学習と問いへの気づかせ方
	第7回	見通しづけ，自力解決及び発表・検討段階の組み方
	第8回	練り合い・練り上げ指導の改善とコミュニケーション活動支援のあり方
	第9回	まとめ・ふり返り・ノート指導，授業研究，数学的活動
	第10回	算数科の目標と領域及び数学的活動
	第11回	第1・2学年の目標と指導内容
	第12回	第3学年の目標と指導内容
	第13回	第4学年の目標と指導内容
	第14回	第5学年の目標と指導内容
	第15回	第6学年の目標と指導内容

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する					

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期
科目名	理科	授業形態	講義	単位数	2単位
担当教員	齋木　健二	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	公立小学校での長期にわたる勤務経験から，小学校で求められる教師の資質に基づいて実践的な指導を行う。				
授業のねらい（到達目標）	学習指導要領や教科書から、授業での実践を学ぶ、学習指導の方法を習得することを目指す。				
授業概要	・現行学習指導要領が改訂されるまでの経緯を踏まえ、小学校理科の目標について学ぶ。 ・小学校理科の各領域の基本事項を教科書の指導事例を考察し、指導方法を実践的に学ぶ。				
テキスト	理科（姫路大学）				

授業計画		
	第1回	1章　学習指導要領に見る小学校理科の全貌 —小学校理科で培いたい資質・能力が何か知る—
	第2回	2章　授業構想　～事例研究～　3．3年　じしゃくにつくもの
	第3回	2章　授業構想　～事例研究～　6．4年　かん電池とモーターの回る速さ
	第4回	2章　授業構想　～事例研究～　14．5年　ふりこが1往復する時間
	第5回	3章 「化学」領域の内容の基本事項　粒子概念　小学校6年　水溶液のはたらき
	第6回	学習指導要領　第2章理科の目標及び内容　第2節理科の内容構成　思考力、判断力、表現力等及び学びに向かう力、人間性等に関する学習指導要領の主な記載
	第7回	2章　授業構想　～事例研究～　19．6年　月の形の見え方と太陽 4章 「地学」領域の内容の基本事項　1　地球の周辺　小学校4年　月と星
	第8回	2章　授業構想　～事例研究～　2．3年　電気を通すもの・通さないもの
	第9回	2章　授業構想　～事例研究～　4．3年　ものの形と重さ
	第10回	2章　授業構想　～事例研究～　7．4年　とじこめた空気のせいしつ
	第11回	2章　授業構想　～事例研究～　16．5年　電磁石の強さが変わる条件
	第12回	2章　授業構想　～事例研究～　20．6年　てこのうでをかたむけるはたらき
	第13回	5章 「地学」領域の内容の基本事項　2　地球の内部　小学校6年　土地のつくりと変化
	第14回	6章　小学校理科と中学校理科との関連
	第15回	7章　小学校理科と中学校理科との関連　義務教育で培いたい進化・遺伝・生態の概念

単位認定・評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期
科目名	公衆衛生学Ⅱ	授業形態	講義	単位数	2 単位
担当教員	小林　佳子	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	小学校,中学校,特別支援学校養護教諭としての実務経験を活かし、現場で求められる養護教諭の資質に基づいて実践的な指導を行う。				
授業のねらい （到達目標）	1.わが国の社会保障制度を概説できる。 2.集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。 3.人口統計および傷病統計に関する指標について概説できる。 4.地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について概説できる。 5.環境汚染（大気汚染、水質汚濁など）の原因、およびそれを防止するための法規制等について概説できる。 6.食中毒の原因となる代表的な細菌等を列挙し、その特徴を概説できる。 7.疾病の予防における疫学の役割を説明できる。 8.疾病の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。 9.リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明できる。				
授業概要	集団の健康保持及び増進のための施策策定及びその情報となる 統計の概念と実際を最近の国民衛生の動向を確認しながら学ぶ。 また、学校保健の領域で活用される統計指標及び評価手法について理解する。				
テキスト	公衆衛生学Ⅱ				

授業計画		
	第1回	わが国の社会保障制度の動向
	第2回	保健医療分野の国際協力
	第3回	公衆衛生の主要指標①
	第4回	公衆衛生の主要指標②
	第5回	健康状態と受療状況
	第6回	感染症対策①
	第7回	感染症対策②
	第8回	食品の安全と食中毒
	第9回	環境保健
	第10回	学校保健
	第11回	特別支援教育
	第12回	疫学
	第13回	スクリーニング
	第14回	医療保険と介護保険
	第15回	まとめ

単位認定 ・ 評価方法					
中間レポート　期末試験の実施　　授業時数の2/3 以上の出席　平常評価：授業態度、提出物等	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する					

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期
科目名	看護演習	授業形態	演習	単位数	2 単位
担当教員	小林　佳子	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	小学校,中学校,特別支援学校養護教諭としての実務経験を活かし、現場で求められる養護教諭の資質に基づいて実践的な指導を行う。				
授業のねらい （到達目標）	対象の健康状態を判断するためのスクリーニングの技術、問題発生時の対処法、養護教諭として一般医療の対象とならない軽微な応急手当から救命・救急時の基本的な技術をみにつける。				
授業概要	養護実践における看護技術を身につけるために演習を中心に学習する。				
テキスト	なし				

授業計画		
	第1回	フィジカルアセンスメントに用いる技術①
	第2回	フィジカルアセンスメントに用いる技術②
	第3回	問診・視診・触診・聴診の技術
	第4回	部位別の一般的なアセスメント
	第5回	症状別フィジカルアセスメント技術
	第6回	環境整備のための技術
	第7回	ボディメカニクスの活用、体位・体位の変換
	第8回	移動の技術
	第9回	罨法
	第10回	包帯法
	第11回	応急処置の実際①
	第12回	応急処置の実際②
	第13回	気道異物除去
	第14回	心肺蘇生法、AEDの使用
	第15回	授業総括

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期
科目名	臨床実習	授業形態	実習	単位数	1 単位
担当教員	小林　佳子	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	小学校,中学校,特別支援学校養護教諭としての実務経験を活かし、現場で求められる養護教諭の資質に基づいて実践的な指導を行う。				
授業のねらい （到達目標）	看護臨床実習の目的は以下3点である。 1）病院の施設設備や各部門のスタッフの動きを見学し、医療機関への理解を深める。 2）診療や看護の過程の見学、患者様やご家族と接すること等を通して、障害疾病への理解を深める。 3）健康問題のある子どもを適切に医療につなぎ、学校と医療機関の良い連携のもとに健康をサポートできる養護教諭としての資質を養う。 臨床実習の具体的目標は以下である。 1）医療機関について理解する ①病院の機能、施設設備、組織、スタッフの構成と業務内容を知る。 ②外来診療に流れ、医療機関を正しく利用できるようにする。 ③外来診療の実際やそれを支えるチームについて知る。 2）障害疾病を理解する ①疾患と症状、それに対する処置や看護の内容、患者様の反応等を見学することにより、保健室でのアセスメント、応急手当、ケア、保健指導等に生かせるようにする。 ②さまざまな健康レベルにある人々の心身の状態について理解し、医師や看護師の患者様への 接し方から、養護教諭としての接し方を学ぶ。 3）医療機関と学校との連携について洞察する ①見学を通して、医療を必要とする子どもへのよりよいサポートのあり方、医療機関と学校と				
授業概要	実習の内容、項目は、実習の時期や病院の診療科目や状況などに応じて実習先と相談の上可能な範囲でお願いさせていただくものとするが、概ね以下の内容を実習内容とする。 1）見学・観察項目 ①治療活動の見学 ②施設設備の管理 ③与薬の準備と管理 ④受付業務の見学 2）参加項目 ①一般状態の観察 ②コミュニケーション技術 ③日常生活援助 ④治療活動への参加				
単位認定 ・ 評価方法	実習院による評価（出勤状況・実習態度・職務理解・施設理解等の評価基準に基づく）、 及び実習日誌を総合して評価をする。 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する				

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	通年(前期)
科目名	音楽表現Ⅲ	授業形態	演習	単位数	1 単位
担当教員	寺内めぐみ・市嶋融介・林麻里子	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	各講師それぞれが、音楽教室・自宅でのピアノ指導歴数十年、またソロの演奏活動、声楽(他楽器)の伴奏等の経験より、初心者の学生からレベルの高い学生まで幅広い指導を行うことができ、「音楽による表現」へのアプローチ、コードによる伴奏付け等のアドバイスを行っている。				
授業のねらい (到達目標)	音を間違う、途中で止まる、弾き直すなどのない演奏をする。 楽曲のテンポを正しくとり、音楽の流れを中断しないようにする。 抑揚のある表情豊かな演奏を心がけたとえ練習曲であっても美しい音楽作品になるように心がける。				
授業概要	「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」「音楽Ⅲ」で習得した技術の上に立って、あらためて保育現場における音楽活動に関わる知識と技術を磨く。子供の歌の特徴を理解し、正しく歌う。ピアノの弾き歌い技術をさらに高め、表現の指導法等、より高い保育・教育実践に必要な知識や技能を習得する。				
テキスト	「ブルクミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム」「コールユーブンゲン」				

授業計画		
	第1回	中間試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第2回	中間試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第3回	中間試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第4回	中間試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第5回	中間試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第6回	中間試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第7回	中間試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第8回	中間試験
	第9回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第10回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第11回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第12回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第13回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第14回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第15回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	通年(後期)
科目名	音楽表現Ⅲ	授業形態	演習	単位数	1 単位
担当教員	寺内めぐみ・市嶋融介・林麻里子	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	各講師それぞれが、音楽教室・自宅でのピアノ指導歴数十年、またソロの演奏活動、声楽（他楽器）の伴奏等の経験より、初心者の学生からレベルの高い学生まで幅広い指導を行うことができ、「音楽による表現」へのアプローチ、コードによる伴奏付け等のアドバイスを行っている。				
授業のねらい （到達目標）	音を間違う、途中で止まる、弾き直すなどのない演奏をする。 楽曲のテンポを正しくとり、音楽の流れを中断しないようにする。 抑揚のある表情豊かな演奏を心がけたとえ練習曲であっても美しい音楽作品になるように心がける。				
授業概要	「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」「音楽Ⅲ」で習得した技術の上に立って、あらためて保育現場における音楽活動に関わる知識と技術を磨く。子供の歌の特徴を理解し、正しく歌う。ピアノの弾き歌い技術をさらに高め、表現の指導法等、より高い保育・教育実践に必要な知識や技能を習得する。				
テキスト	「ブルクミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム」「コールユーブンゲン」				

授業計画		
	第1回	中間試験課題（ソルフェ・ソナチネ・弾き歌い）を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第2回	中間試験課題（ソルフェ・ソナチネ・弾き歌い）を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第3回	中間試験課題（ソルフェ・ソナチネ・弾き歌い）を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第4回	中間試験課題（ソルフェ・ソナチネ・弾き歌い）を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第5回	中間試験課題（ソルフェ・ソナチネ・弾き歌い）を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第6回	中間試験課題（ソルフェ・ソナチネ・弾き歌い）を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第7回	中間試験課題（ソルフェ・ソナチネ・弾き歌い）を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第8回	中間試験
	第9回	期末試験課題（ソルフェ・ソナチネ・弾き歌い）を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第10回	期末試験課題（ソルフェ・ソナチネ・弾き歌い）を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第11回	期末試験課題（ソルフェ・ソナチネ・弾き歌い）を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第12回	期末試験課題（ソルフェ・ソナチネ・弾き歌い）を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第13回	期末試験課題（ソルフェ・ソナチネ・弾き歌い）を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第14回	期末試験課題（ソルフェ・ソナチネ・弾き歌い）を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第15回	期末試験課題（ソルフェ・ソナチネ・弾き歌い）を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。

単位認定 ・ 評価方法	
	期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席
	平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する

総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

2025年度　　新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	通年(前期)
科目名	情報処理Ⅲ	授業形態	演習	単位数	2 単位
担当教員	金子　貴之	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	・IT、ビジネス、ゲームの学科でIT技術、プログラミング、簿記、CGなどの科目を33年間担当 ・日常業務でExcel、Word、Webサービスなどを使用している				
授業のねらい （到達目標）	・WordやPowerpointで「見やすく、読みやすく、わかりやすい」資料が作成できるようになる ・就業先で業務利用や些末なトラブル対応ができるだけのICTスキルを身につける				
授業概要	・課題に取り組みながらOfficeの基本操作を習得し、AIや便利なサービスを体験する ・資料作成におけるレイアウトやデザインの基本ルールを習得する ・各課題は授業時間内で終わるボリュームとする				
テキスト	・おたより文例＆イラストカット集 ・できるPowerPoint2019				

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	・テキスト第0章 ・PCスキルやタイピング速度の確認
第3回	【課題1】Powerpointにてスライド作成（好きなモノやコトを紹介）
第4回	課題1の講評（プロジェクタで投影して全員に対して行う）
第5回	【課題2】Wordにて文書作成（6月の園だより[A4片面]）
第6回	・課題2の講評（紙で配布して全員に対して行う） ・テキスト第1章、第2章、第3章
第7回	・テキスト第4章（スライドデザイン）、第5章（文字の書式設定） ・【課題3】履修内容の復習
第8回	・テキスト第6章（表）、第7章（グラフ） ・【課題4】履修内容の復習
第9回	・テキスト第8章（図形）、第9章（アイコン、図表） ・【課題5】履修内容の復習
第10回	・テキスト第10章（画像、動画） ・【課題6】履修内容の復習
第11回	・課題3の構成検討（同一の実習先でも個人で考える） ・【課題8】スライド作成（教育実習の報告）
第12回	【課題8】スライド作成（教育実習の報告）
第13回	・テキスト第11章（アニメーション） ・【課題7】履修内容の復習
第14回	【課題9】Wordにて文書作成（イベントの案内状[A4横両面二つ折り]）
第15回	【課題10】Wordにて文書作成（こども祭りのチラシ[A3片面]）

ゴールデンウィーク

教育実習で4週間中断

単位認定・評価方法

課題評価：課題の提出状況、完成度

平常評価：授業態度

上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する

総合評価算出基準	期末	課題	平常	出欠
	－	75%	10%	15%

授業概要(シラバス)

2025年度　　新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	通年(後期)
科目名	情報処理Ⅲ	授業形態	演習	単位数	2 単位
担当教員	金子　貴之	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	・IT、ビジネス、ゲームの学科でIT技術、プログラミング、簿記、CGなどの科目を33年間担当 ・日常業務でExcel、Word、Webサービスなどを使用している				
授業のねらい （到達目標）	・WordやPowerpointで「見やすく、読みやすく、わかりやすい」資料が作成できるようになる ・就業先で業務利用や些末なトラブル対応ができるだけのICTスキルを身につける				
授業概要	・課題に取り組みながらOfficeの基本操作を習得し、AIや便利なサービスを体験する ・資料作成におけるレイアウトやデザインの基本ルールを習得する ・各課題は授業時間内で終わるボリュームとする				
テキスト	なし				

授業計画		
	第1回	Googleの様々なサービスについて
	第2回	WordとGoogleドキュメントによるビジネス文書作成
	第3回	WordとGoogleドキュメントによるビジネス文書作成
	第4回	WordとGoogleドキュメントによる様式作成
	第5回	ExcelとGoogleスプレッドシートによる様式作成
	第6回	ExcelとGoogleスプレッドシートによる関数の活用
	第7回	ExcelとGoogleスプレッドシートによる関数の活用
	第8回	様々なWebサービスについて
	第9回	Canvaの基本操作
	第10回	Canvaの基本操作
	第11回	【課題】名刺制作
	第12回	【課題】掲示物制作
	第13回	【課題】合成音声を用いた動画制作
	第14回	【課題】合成音声を用いた動画制作
	第15回	【課題】合成音声を用いた動画制作

単位認定 ・ 評価方法					
課題評価：課題の提出状況、完成度 平常評価：授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	課題	平常	出欠
		－	75%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期
科目名	図工科指導法	授業形態	演習	単位数	2 単位
担当教員	渡邉　恵美	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	高等学校美術科非常勤講師				
授業のねらい （到達目標）	図工科の教育目的と内容を理解し、学習指導要領に基づいて、「A表現」「B鑑賞」、「共通事項」も含め、学んでもらう。理論的な面と実践的な教材研究も交えながらポイントを押さえ、学習指導の力を身につける。				
授業概要	指導案作成や模擬授業なども状況に合わせて行う。技術も大事だが、個々の発想、アイデアなどがあふれる表現活動になるようイメージしながら指導を考えて欲しい。指導する上でしっかりと教材に触れ、自ら体験することが大事なので、教える側の目線で考えながら制作も行う。				
テキスト	図工科指導法（姫路大学）				

授業計画		
	第1回	授業内容の説明、図工の歴史的変遷、教科書、指導要領等
	第2回	学習指導要領について①
	第3回	学習指導要領について②
	第4回	造形遊びについて　演習課題
	第5回	造形遊びについて　演習課題
	第6回	絵に表す　説明　演習課題
	第7回	絵に表す　演習課題
	第8回	立体・工作に表す　説明　演習課題
	第9回	立体・工作に表す　演習課題
	第10回	指導計画、鑑賞について、評価について
	第11回	指導案、模擬授業等について、課題作成
	第12回	模擬授業①
	第13回	模擬授業②
	第14回	模擬授業③
	第15回	まとめ、振り返り

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%